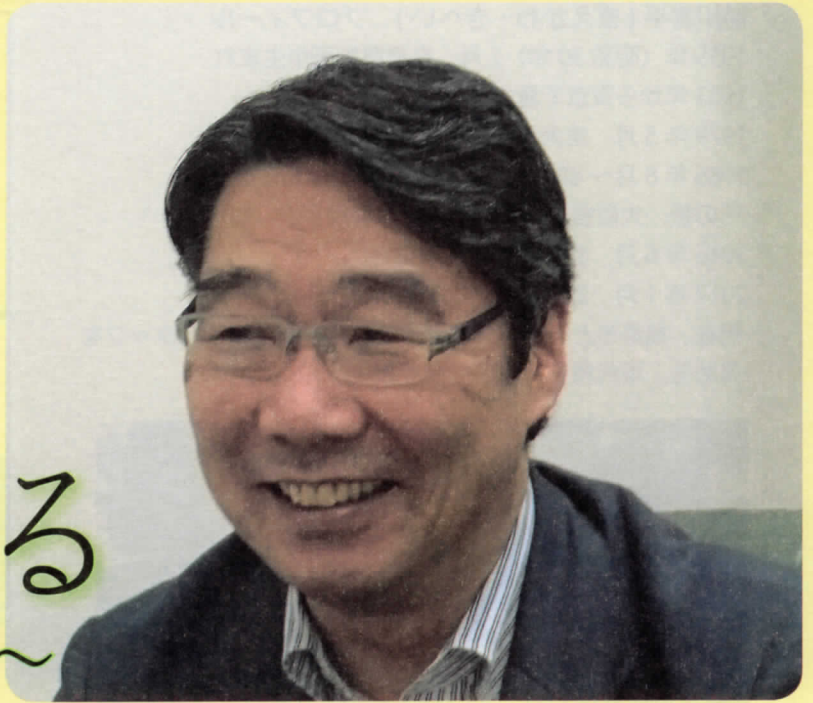




前川喜平 教育を語る

～自分で学ぶ力とは～



日時：

平成30年8月1日（水）

午後6時半～8時半（開場6時）

場所：

岩沼市民会館 中ホール

資料代：

500円（中学生・高校生無料）

主催：：前川喜平 岩沼講演会実行委員会（代表：穴戸洋）

後援：：河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局

問い合わせ：：090-3983-7939（植田美枝子）

<整理券の取り扱い所>

・おしゃれ工房 豊川（22-3528）岩沼駅前

・軽食喫茶「四方山」（23-5008）葬祭会館「大光殿」向い

前川喜平(まえかわ・きへい) プロフィール
1955年(昭和30年)1月 奈良県御所市生まれ
1963年から東京で育つ

1979年3月 東大法学部卒、4月文部省入省
1986年8月～88年8月 宮城県教育庁行政課長
その後、大臣官房長、初等中等教育局長

2016年6月 文部科学政務次官

2017年1月 退官

現在、福島市と神奈川県厚木市で自主夜間中学のスタッフを務める。現代教育行政研究会代表



<文科省職員にあてた退官メール>

以下は、前川喜平氏が2017年1月に文部科学事務次官を退官したとき、文科省の全職員に送ったメールの一部です。(ちくま新書『これからの日本、これからの教育』から)

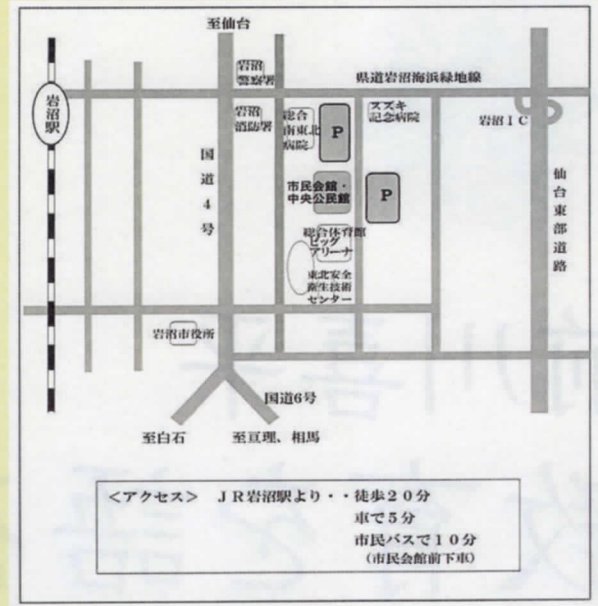
多様性が尊重される社会を目指してほしい

……文部科学省の任務は極めて重要です。私が考える文部科学省の任務とは、教育・文化・スポーツ・科学技術・学術の振興を通じて、誰もが明るく楽しくしあわせに人生を全うできる社会をつくること、未知なるものに挑戦し、限界を克服し輝く未来へと前進すること、さらには自由で平等で平和で民主的で文化的な国をつくり世界の平和と人類の福祉に貢献することです。

そして、私が考える文部科学省職員の仕事は、子どもたち、教師、研究者、技術者、芸術家、アスリートなど、それぞれの立場でがんばっている人たちを助け、励まし、支えていくことです。

特に弱い立場、つらい境遇にある人たちに手を差し伸べることは、行政官の第一の使命だと思います。

その意味でも、文部科学省での最後の日々において、給付型奨学金制度の実現の見通しがついたこと、発達障害や外国人の児童生徒のための教職員定数改善に道筋がついたこと、教育機会確保法が成立し、不登校児童生徒の学校外での学習の支援や義務教育未修了者・中学校形式卒業生などのための修学機会の整備が本格的に始まることは、私にとって大きな喜びです。



一方で、もんじゅの廃炉と今後の高速炉開発に向けた取り組み、文化庁の機能強化と京都への移転、高大接続改革の円滑な実施など、数々の困難を残して去ることはとても心残りです。

……………中略

ひとつお願いがあります。私たちの職場にも少なからずいるであろうLGBTの当事者、セクシュアル・マイノリティの人たちへの理解と支援です。無理解や偏見にさらされているLGBT当事者の方々の息苦しさを、少しでも和らげられるよう願っています。そして、セクシュアル・マイノリティに限らず、様々なタイプの少数者の尊厳が重んじられ、多様性が尊重される社会を目指してほしいと思います。

……………中略

それでは皆さんさようなら。

2017年1月20日

